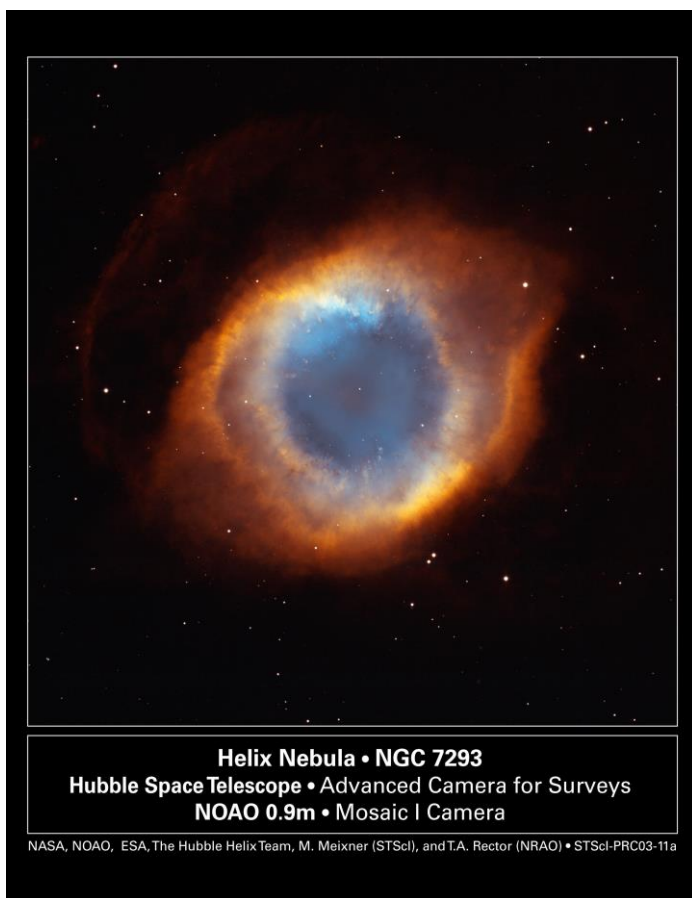




NGC7293



NGC 7293: The Helix Nebula

Credit: [NASA](#), [WIYN](#), [NOAO](#), [ESA](#), [Hubble Helix Nebula Team](#), [M. Meixner \(STScI\)](#), & [T. A. Rector \(NRAO\)](#)

この写真は NGC7293、「らせん状星雲」と呼ばれている惑星状星雲の写真です。惑星状星雲とは、18世紀、ウィリアム・ハーシェルによって、その姿が天王星などに似ていることから名づけられましたが、惑星とは関係ありません。比較的小さな質量の恒星が自らのガスを放出し、元の大きさよりも小さな白色矮星になり、紫外線を放ちます。その紫外線が周りのガスを照らしている姿なのです。

らせん状星雲は、みずがめ座の方向へ地球から約700光年の距離にあり、地球に最も近い惑星状星雲の一つです。見かけの大きさが月の2/3ほどもある大きな星雲ですが、明るくなく肉眼では見る事が出来ません。

名前の通り「らせん」の形をし、そのらせんを上下方向から見ていることが分かっています。

私たちの身近な太陽もいつの日かこのような姿になると言われています。遠い過去に起きた宇宙の現象が、未来の星の姿を教えてくれています。

(解説員: 松本 萌)